

らぬい  
くま

不知火海・球磨川流域圏学会

# NEWS LETTER

令和2年度 第1回 現地見学会報告

高平雅由

不知火海・球磨川流域圏学会 令和3年度大会のお知らせ **緊急**

令和2年7月豪雨の 芦北町の被害について

大島幸輔

水俣の山間部に巨大風力発電計画

中村雄幸

新会員紹介

中村雄幸

会計報告

坂井米夫

令和2年度大会・現地見学会案内

つる詳子



29

2021年5月20日発行

現地見学会で訪れた坂本地区での週尾久写真



## 令和2年度 第1回 現地見学会報告

# 「豪雨災害坂本地区フォトレポート」

高平雅由

今年度、当初6月に予定していた山江村の現地見学会はコロナの影響で延期になり、そうこうしているうちに7月の豪雨災害が起きた。今年度の見学会は取りやめかとあやぶまれたが、当学会のフィールドである球磨川流域の被災状況を実際に見聞しておきたいという要望もあり、被災地の受け入れ状況も考慮して坂本地区を中心に少人数で行った。当学会関係者の多くも被災し、また復旧作業に係わるなど大変な状況ではあったが、受け入れていただいた地元の方々に感謝したい。

## 坂本駅

昨年の総会を開いた会場の真ん前にある坂本駅。総会の開会前、このホームに入線してきたSLをみんなで見物したのがウソのような惨状だった。



荒瀬ダム撤去運動のリーダーだった本田さん。本田さんの経営する店も自宅も瞬く間に水に飲まれた。自宅から命からがら脱出した時の様子を聞いた。これだけの被害に遭いながら、それでもダムは防災の役には立たないという信念は揺らいでいなかった。



お店は支援物資の集配所になっていた。



## 片岩地区

道の駅・坂本の館長、道野さんに片岩の自宅周辺の被害状況を説明していただいた。小さな子どもや家族のことを考えると、この先もこの地域に住み続けられるのか、心配だという。磨川の支流、油谷川の氾濫で水に浸かった道野さんの家の内部。



## 湯の鶴旅館



球磨川沿いにいる木造三階建ての湯の鶴旅館。大きな被害を受けたが流出を免れただけでも奇跡的といえる。再開に向けてたくさんのボランティア、関係者が作業をしていた。

旅館のご主人土山さんに被災状況や再開に向けての計画などを聞いた。



## 不知火海・球磨川流域圏学会 令和3年度大会のお知らせ 緊急

コロナ禍の緊急事態制限により、昨年に引き続き本年も大会の現地開催が危ぶまれる状況になり、お知らせが遅くなり申し訳ありません。連続の開催中止は避けるために、本年度は総会・研究発表会のみオンライン開催とさせていただきます。また、今回の研究発表会は、昨年の熊本豪雨による球磨川大水害に関する発表となっています。また、不参加の方は、同封の委任状をご返信ください。

### 【オンライン参加に関するお知らせ】

当日の入室URL、及びミーティングID、パスコード

<https://us02web.zoom.us/j/86903319097?pwd=YmtvQ1ZMNTk4UXdpckllRmxvVHFqUT09>

ミーティングID: 869 0331 9097 パスコード: 962298

※入室は、10時からです。 ※研究発表会の定員は、一般参加を含め80名までです。早めにお申し込みください。 ※総会議事案の賛否、質問・意見に関しましては、ZOOMの挙手機能を利用させていただきます。

※参加される方は、[tokimatu@kumamoto-nct.ac.jp](mailto:tokimatu@kumamoto-nct.ac.jp) (時松雅史)までお知らせください。



## 荒瀬地区



去年の見学会で昼食をいただいた和食処・和嶋さんもこの有様。鮎定食が美味しかった。



「この辺りが玄関だったなあ」



## 瀬戸石ダム

瀬戸石ダムが川の障害物となり被害を大きくしたという声は多い。



瀬戸石ダムが管理橋は最大75cmずれていた。



管理橋から210cmの所まで水がきた痕跡が。

## 球磨川と支流



球磨川と支流行徳川の合流地点。鉄橋に上流から流れてきた流木が引っかかり川をせき止めて更に被害を拡大したのが分かる。「今回の水害は川だけでなく山の問題で被害が拡大した」とつるさん。

### 流失した肥薩線球磨川第一橋梁



流出した球磨川第一橋梁は明治41年に架けられて以来100年以上災害に耐えてきたが...



## 多武除(たぶのき)地区

瀬戸石ダムの上流にある多武除集落は多くの家屋が本流から来た泥と支流上流からの土石で軒先まで埋められていた。ダム上流の多くの集落で同様の被害が見られるという。



ダムの上流の堆積の仕方は明らかに他の場所とは違っていた。



一階部分が土石で埋められた家屋

日時：令和3年6月6日(日曜日) 午前10時30分開始～午後6時終了

総会：午前10時30分開始(※ZOOM入室は午前10時から可能です)

研究発表会：13時30分開始 ※ポスター発表はなし

基調講演 「私が考える流域治水とは？」 島谷幸宏氏(熊本県立大学 特別教授)

### 研究発表

- ・「球磨川大水害は何故起こったか-被災地から見てきたこと-」 つる 祥子(自然観察指導員熊本県連絡会 会長)
- ・「泥の中から本を出す」 松本学(人吉中央出版社 制作主任)
- ・「球磨川における土砂災害の速報」 森山聡之(福岡工業大学社会環境学部 教授)
- ・「坂本町の住民の被災状況と今後の住まいの意向について」 柴田祐(熊本県立大学環境共生学部 教授)
- ・「被災状況と直前の醸造所内の配置及びその使われ方について  
—2020年7月熊本豪雨による球磨村潤田酒造本店復興支援—」 磯田節子(熊本高等専門学校 特命客員教授)
- ・「人工林の皆伐が洪水に及ぼす影響」 藏光治一郎(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)



# 「令和2年7月豪雨の芦北町の被害について」

葦北史談会（日羅の会）事務局

大島 幸輔



【写真3】

【写真3】芦北地区 町役場周辺（広報あしきた9月号より）

令和2年7月4日の豪雨は、芦北町 史上最悪の被害をもたらした。

芦北町では、球磨川の氾濫による被害もあったが、佐敷（さしき）川や湯浦（ゆのうら）川流域など人口の比較的多い地区の河川が氾濫したことが被害を大きくした。

4日午前2時30分頃に佐敷・湯浦地区の道路が冠水しているとの連絡が役場にあったというから、そのころにはすでに佐敷・湯浦川とも氾濫していたのだろう。私（役場職員には、午前3時頃に役場集合の連絡があったが、国道3号線の冠水で役場まで行くことができず、最寄りの避難所運

営にあたった。

当然、災害待機当番職員は前日からすでに役場に待機していたが、当番以外の職員にも招集がかかったのがこの頃であり、私同様に到着できなかった者も多数いた。しかし、誰もがこれほどの災害になるとは、予想していなかったと思う。

役場の気象観測では、3～4日の最大1時間雨量は92ミリ、24時間雨量は538ミリを記録した。これは昨年の7月分の雨量（608ミリ）に相当するので、わずか1日で1か月分の雨が降ったことになる。

9月9日現在で、住宅被害は全壊70件、大規模半壊141件、半壊733件となっており、人吉市に次ぐ被害となっている。特に町中心部を流れる佐敷川の氾濫により、佐敷町4区（本町、上町、新町、向町、花岡、道川内、白岩、芦北、宮浦（みやのうら）、八幡（やはた）、桑原地区で床上浸水の住宅が多発した。

また、土砂崩れも多く発生し、女島（めしま）、田川、伏木氏（ふきし）、小田浦（こだのうら）地区では死亡者が出た。当然、球磨川沿いの地区の被害は甚大で、道路の崩落により白石地区は長く孤立集落となり、小口地区では1名の方がいまだ行方不明である。

住宅だけでなく、農地の被害も大きく、山間部の田畑は修復困難



と思われるほど 河川護岸が 抉られ、土砂が流入している。農林業を担っているのは、高齢者の割合が高く、後継者がいない家も多い。今後、多額の自己負担をしても農地を復旧する人がどれくらいいるだろうか。

本町の犠牲者（11名）は土砂崩れによるものがほとんどであった。特に球磨川流域地区では、行方不明者1名を除くと死亡者はいなかったことになる。球磨川沿いの被害は、佐敷川の被害とは比較にならないほど激しいものであったから、事前避難していないと多数の犠牲者が出たと思う。地区住民は経験から川の恐ろしさを十分認知しており、自らの命を守る行動をしていたのだと感じた。

災害から2か月以上たち少しは落ち着きを取り戻しつつある。町の復興には、熊本地震並みの時間を要するだろう。今、多くの人が“もっとこうしておけば良かった”“もっとこうして欲しかった”と思っている。この際この災害を契機に、防災への当事者意識の高まりや被災者への思いやりの気持ち、また自然への畏敬の念をあらためて覚えたことと思う。町民全体がこの意識を忘れず持ち続けることで、数年後さらに住み良い町になると私は私は信じている。（以上、計測値等は広報あしきた9月号を参考に

しました）

続いて、写真により被害状況を説明したい。



【写真1】佐敷地区地区 新町（地元住民FBより）

旧薩摩街道沿いの歴史の趣のある地区。2m近く浸水した住宅もあり、佐敷川の氾濫では最も被害が大きかった場所の一つである。平屋の天井付近まで浸水し、80代の高齢者が1名亡くなった。



【写真2】花岡地区花岡地区 でこぼん周辺（地元住民FBより）

芦北IC付近の“ファーマーズマーケットでこぼん”などで賑わっていた地区。大人の胸あたりまで浸水した。でこぼんは再開までに約2か月かかり、周辺の芦北高校も甚大な被害を受けた。

【写真3】芦北地区 町役場周辺（広報あしきた9月号より）

役場、振興局、警察署、消防署などが集中する中心部。国道3号線は大人の腰辺りまで浸水し通行止めになり、肥薩おれんじ鉄道も佐敷トンネル付近で土砂崩れが発生し不通となった。



【写真4】湯浦地区 国道3号線号線（地元住民FBより）

比較的 low 地で浸水しやすい場所である湯浦北地区。10年ほど前に排水機場が新設されていたが、あまりの雨量に対応できなかったか。



【写真5】女島地区（筆者撮影）

初期にテレビで大きく報道された地区。土砂崩れにより夫婦2名が亡くなられた。女島地区は大きな土砂崩れだけでも3か所発生し、当初完全に孤立した。





【写真6】田川地区（筆者撮影）

女島地区同様に初期にテレビで大きく報道された地区。土砂崩れにより家族3名が亡くなりました。



【写真7】告地区 漆口（筆者撮影）

球磨川沿いの地区で、道路の電線まで漂流物が引っ掛かっているのが、浸水の深さを物語っている。芦北町中心部の浸水区域とは別世界のような感がある。



【写真8】告地区 大瀬橋（筆者撮影）

元々大きい橋ではなかったが、球磨村側へ渡る告地区住民の重要な交通路であった。今回の水害で流失してしまい、橋脚だけが残されている。



【写真9】白石地区（筆者撮影）

地区へ通じる道路がごとごとく崩落し孤立したため。自衛隊や消防団が食料等を担いで運搬した。住宅は基礎を抉られ、壁も大きく破損している。



【写真10】大岩地区（筆者撮影）

芦北町東部で吉尾地区に至る山間部。吉尾川が氾濫して田んぼをショートカットしたため、流路がすっかり変わってしまった。農地の復旧に相当な時間を要すると思われる。



【写真11】吉尾地区 和田口（筆者撮影）

球磨川と吉尾川の合流地点にある肥薩線の鉄橋。鉄橋に引っかかる漂流物が残る。



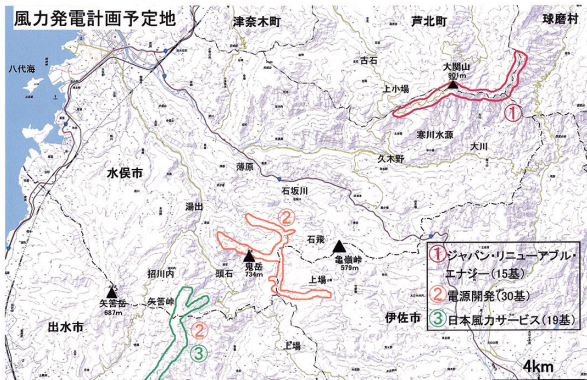
【写真12】吉尾地区 高野屋旅館（筆者撮影）

写真11より約400m上流にある旅館。山奥の秘湯山奥の秘湯として知る人ぞ知る隠れ宿であったが、元々かさ上げしていた2階まで浸水し大きな被害を受けた。



中村雄幸

# 水俣の山間部に巨大風力発電計画



## 計画の概要

矢筈岳(687<sup>㍎</sup>)付近に 19 基(日本風力サービス)、鬼岳(734<sup>㍎</sup>)周辺に 30 基(電源開発)、大関山(901<sup>㍎</sup>)尾根伝いに 15 基(ジャパン・リニューアブル・エネルギー)。

水俣の屋根と言うべき山々に合計 64 基の風力発電が計画されている。県内では西原村の風車が稼働しているが、その規模を 1 基当たりで比較すると

西原村一定格出力(1750 KW) ローター(羽根)直径(66<sup>㍎</sup>) 高さ(93<sup>㍎</sup>)

水俣市一定格出力(4300 KW) ローター(羽根)直径(130<sup>㍎</sup>) 高さ(150<sup>㍎</sup>)

巨大風力発電と称することに納得して頂けると思う。県によれば、現在稼働中の風力発電が 6 カ所、20 基。水俣市の計画分だけで県内既設数の 3 倍を上回る。

これまでで環境影響評価の配慮書の公告・縦覧が全て終わった。3 社の計画に対する知事意見書も出されている。現在 1 社が「方法書」の公告・縦覧中である。残る 2 社は年が明けてからの公告・縦覧の予定。方法書の段階から「住民説明会」が行われる。

## 背景

降って湧いたような巨大計画。これは、水俣に限らず全国津々浦々で展開されている。隣の北薩では紫尾山系の巨大風力発電計画が進んでいる。ここは

130 基の予定。

固定価格買い取り制度(FIT)が間もなく終了する(12月18日が申請受付の締め切り)から、事業者は手当たり次第に計画の申請をしている。これはメガソーラーも同じ。

申請が受理されれば、稼働までの時間の余裕は充分ある。稼働を開始してから 20 年間は固定価格で買い取られる。1 キロワット当たり買い取り価格が、2018 年では 20 円、2019 年では 19 円、2020 年では 18 円と推移してきている。ところが、固定価格買い取り制度が終了後の来年度以降の買い取り価格は全く補償がない。事業者にとっては風力発電で金儲けをする最後のチャンス。

## 問題点

建設予定地から 2 km 以内に居住する人達にとって(久木野、石坂川、湯出地区の合計 727 世帯)

- ・騒音による睡眠障害。稼働してから 2～3 週間で影響が出てくる。
- ・個人差はあるが低周波音による障害(頭痛、目まい、イライラ、精神障害、持病の悪化などが各地で報告されている)。
- ・シャドーフリッカーによる農作業への影響(風車が回ることによって影が出来る。気分が猛烈に悪くなる。茶園作業など。水俣茶が心配)
- ・飲み水が危ない(山間部なのでほとんどが簡易水道。濁ったり、水が出なくなる)
- ・湯の鶴温泉も心配(水脈に影響が出てくる可能性あり)
- ・土砂崩れ、地滑りなど。
- ・小学校が 2 校、中学校が 1 校(2.4km) 介護施設が 2 カ所。(とんでもないことだ)
- ・各地区の仕事への影響(久木野のソーメン流し、石飛のお茶、湯の鶴温泉)。
- ・山が変わる、故郷が失われる(大関山と鬼岳は古来から信仰の山。年に 3 回の祭りがある。)



- ・久木野の棚田は大丈夫か（日本の棚田百選、景観に影響在り）。
- ・寒川水源も心配されている（熊本名水百選、地下水に影響）。亀嶺峠の景観が変わってしまう（頼山陽も嘆くだろう）。
- ・20年後、完全な原状回復がなされるのか？



**建設予定地周辺に生息する生き物たちにとっては**  
バードストライク（回る風車に巻き込まれてしまう事故。野鳥はもとより、クマタカやサシバなどの猛禽類やコウモリなどの被害が各地で報告されている）

尾根部を切り開くために自然林が失われる。譲葉鳥獣保護区と隣接している（生態系が壊される。ヤマネ、クマタカ、ニホンカモシカなどの希少種にも影響）

尾根に管理専用道路ができると、シカが容易に移動する。食害による植生に影響が出る。（シカやイノシシの被害拡大は各地で報告されている）

**里山、市街地で暮らす人達にとっては**

水源涵養保安林が解除され伐採されると、水脈に影響する。水瓶が心配される。

土砂崩れ、地滑りなどにより河川の水質の悪化が懸念され、海への影響も心配される（メガソーラーの開発による被害が現実となっている。漁業補償にまで発展）

20年後、事業者が倒産などの時は自治体はその費用負担を強いられるケースもある。

メリットとして、固定資産税などの税収が見込まれているが、実際は地方交付税が減額されるので実質は25%の税収となる。期待するほどではない。

**日本レベルで考えると**

風力発電は当てにならない。風が吹かなければ発電しない。

風力発電はエコにはならない（電力会社は購入はするが、当てにならないので、火力発電で調整をしている。CO2はあまり削減されていないのが実態）

**市民の動き**

**計画を知ったのは6月。**

それまで風力はエコだと漫然と思っていた。それに先だって北薩の紫尾山系に164基の風力発電計画が進んでいた。紫尾山の現地調査をするツアーに参加した。本当は山歩きを楽しもうという安易な気持ちだった。峰林道と呼ばれる尾根伝いの道を、地質の専門家、野鳥の専門家、山仕事の経験者に解説を聞きながら15kmほどを半日かけて回った。最後に峠から見返してその美しさに圧倒された。5月の「山笑う」季節だった。

どんなにエコであろうが、この山々に風車は似合わない。出来たら終わりだと思った。理屈ではない、直感だ。あれこれ勉強してみると風力発電は「煮ても焼いても食えぬ代物」という確信になってきた。

さすがに計画予定地の地域の人達は敏感に反応した。「こんなのが出来たら仕事が出来なくなる。仕事を辞めるしかない。住めなくなる。山が変わってしまう。故郷の山がなくなる」近すぎるのだ！！

**「ちょっと待った！水俣風力発電」の結成（まず、知ってもらうことから！）**



会報の発行と会員の拡大、市議会への陳情、風力発電事業者に対して説明会の要請、説明会の実施、お隣の「紫尾山系の巨大風力発電計画を考える会」との交流、意見交換、講演会、看板の設置、ミニ集会やワークショップ、現地調査・山歩き、などを展開してきた。現在計画の白紙撤回を求める署名活動を進めている。

12月市議会では計画に賛成する議員（2名）、反対する議員（1名）それぞれが一般質問で取り上げた。かつての産廃反対運動を彷彿とさせる流れになってきた。物事はメリットとデメリットを秤にかけて判断することが多い。しかし、この問題は秤にかけて判断できるような安易なものではない。

水俣は、「安賃闘争」「水俣病」「産廃処分場問題」で住民の中に対立と分断の歴史を抱えてきた。風力発電計画によって新たな対立や分断を持ち込んではいけない。

命を守り、暮らしを守り、故郷の山々を守るために市民同士の議論が求められている。

## 事業者の動き

環境影響評価手続きに従って、「配慮書」段階を終えている。次の段階の「方法書」の公告・縦覧が1社。2社は年明けてから公告・縦覧の予定。「住民説明会」も年明けてから予定されている。

ここに来て、新たな動きが出てきた（資料参照）。「泣く子も黙る？」電源開発が、市内全戸に郵送したチラシである。中身は何一つない。企業イメージのアップを狙っているだけ。全市民を対象とした説明会でありながら、80席の会場を設定している。やる気がないとしか言いようがない。熊本弁の「帳面消し」である。

企業だから、金儲けは当たり前だが、人の暮らしや市民全体の財産を踏み台にしての荒稼ぎは許されてはならない。


水俣市にお住まいの皆様

(仮称)肥薩ウインドファーム  
説明会のご案内

2020年12月

◆はじめに

- 風力発電をはじめとする自然エネルギーは、発電時に二酸化炭素を排出せず、クリーンで枯渇することのない純国産エネルギーです。
- 国のエネルギー基本計画において導入拡大が定められており、2030年に電源構成比率22～24%の達成、2050年には脱炭素化した主力電源化を目標としています。
- 特に風力発電は、他の再生エネルギー（太陽光等）に比べても発電効率が良いというメリットがあります。
- 本計画は、熊本県水俣市、鹿児島県出水市および伊佐市において風力発電事業の実施を検討するものです。我が国の風力開発は、黎明期（2000年前後）においては臨海部や高原部等立地条件の良い場所での開発から始まり、現在は急峻地形である一方、好風況とされる山岳地の稜線等で計画が多くなっており、本計画もそのひとつとなっております。



◆環境影響評価手続きについて

- 事業による環境への影響を調査・予測・評価するため、風力発電事業は2012年より環境影響評価対象事業となりました。「①配慮書②方法書③準備書④評価書」の4つのプロセスを踏まえて事業計画を検討します。
- 4つの手続きが完了する前に事業者が勝手に事業・建設工事を進めることはできません。
- 本計画につきましても、今後、環境影響評価手続きの中で十分な現地調査や国の審査のもと、事業の検討を行って参ります。
- 弊社はこれまで80年以上に亘り発電事業を全国で行い、事業実施には地域の皆さまのご理解ご協力は不可欠であると考えております。決して皆さまのご理解ご信頼のない中で、事業を進めることは致しません。

◆計画概要のご説明について

- この度、本計画に関する概要や今後のスケジュール等について、水俣市にお住まいの皆様にご説明の機会を設けて頂きたく、下記の通りご案内申し上げます。

日 時：2020年12月22日（火）開場18：30 開始19：00  
場 所：水俣市総合もやい直しセンター「もやい館」もやいホール  
そ の 他：新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、席数を最大80席とさせて頂き  
ますので、場合によっては入場制限を行います点、ご了承頂きますと幸いです。



【連絡先】



電源開発株式会社 風力事業部 事業推進室  
戸松、若林 TEL:03-3546-9600

## 今後の展望

「何故、紫尾山を選んだのですか？誰も来て下さいと頼んでいません」先日の鹿児島県出水市の「住民説明会」で市民の怒りの声だった。「風況マップで調べました。それから現地調査に入りました」「山頂まで資材を運搬するため、森林を伐採して取り付け道路を作ります。この道路は林道として活用し、森林・林業の発展に資することとなります」（電源開発）この説明に対して会場から、「永く林業の仕事に携わってきました。どうしても許せない発言がありました。山の仕事を舐めるんじゃない！」一括した。

肩で風切る再生可能エネルギーは計画予定地の住民の命と暮らし、仕事に対する誇り、自然への愛着、山に対する信仰の深さ、等々、ほとんど顧み



ない。

個人的だが、これまで「水俣の海」しか見てこなかった。この計画で「水俣の山」を初めて見ることになった。

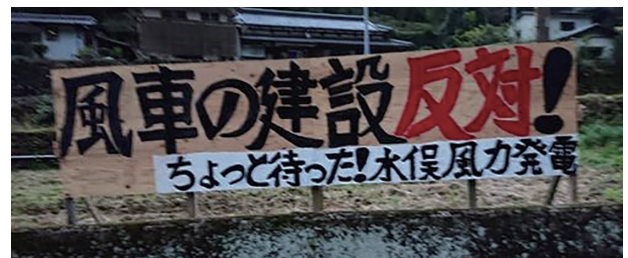
「もやい直し」が今も大きな課題となっている。海の民と山の民が繋がっていけたらなーと思う。

新しい水俣の姿が垣間見えて来た気がしている。山と暮らしを守ろうと立ち上がった人々は、かつての水俣病で立ち上がった人々と妙に重なってきた。

「義によって助太刀いたす」は故本田啓吉 熊

本水俣病を告発する会代表の結成時の挨拶で。

「義を見てせざるは勇なきなり」（中村鮮魚）及ばずながら私も頑張ってみよう。



## 新会員紹介

### 中村雄幸 (なかむらゆうこう)

#### 自己紹介

中村雄幸 (70歳) 鮮魚移動販売  
33年目

新潟県の山奥で生まれ育った。冬は2mを超える積雪量の豪雪地帯。ほぼ限界集落。

ここから先は道がありませんの状態。米しか作れない寒村。冬は杜氏として諸国に出稼ぎに出ていた。

故郷を離れて、下関市の水産大学校に入学(1969)。ここまで来たのには幾つもあるのだが、強いていえば海への憧れだった。小1の遠足で初めて海を見た。ため池しか知らなかった私には驚きと感動の風景となった。大学の表海岸は砂浜、裏海岸は磯浜。有頂天の学生生活が夏休みまで続いた。



秋になると、遅まきの大学紛争の波が押し寄せてきた。政治のことなど考えたこともなかった。免疫のない私はみるみるうちに感染した。やがて紛争の波が過ぎ去り学生達は大学に戻っていく。取り残された私がいいた。大げさだが、人生最初の挫折である。出口がなかった。

悶々として1年、見かねて、友人が水俣に行かないかと誘ってくれた。自転車で行ったので、3日目の夜遅く茂道という漁村に着く。イリコ漁の網元、杉本雄・栄子夫妻宅にやっかいになる。

暗い内にたたき起こされて船に押し込まれた。暗闇が次第に明るさを増してきた。無風。こんもりと茂った森。森に囲まれた小さな入江。その真ん



中に船が浮かんでいる。網を手繰っていくと魚がはねる音が大きく響く。下には小さなウロコが朝日に当たってキラキラと輝きながら舞い落ちてゆく。海の色は濃い緑色だった。沼だと思った。今まで見たことのない海があった。舐めてみるとほのかに甘い。忘れられない不知火海との出会いの朝となった。その後暫く杉本さんのところでやっかいになった。水俣病の被害者で病状は悲惨だった。自分でも出来ることがあるのでは、そう思った。(手助けをしたいと当人は一生懸命だったのだが、振り返ってみるとしっかりと、温かく見守られていたのは私だった) やっと出口が見えてきた。水俣に救われた気がしている。

その後水俣病センター相思社の設立(1974)と同時に職員となり、患者の救済支援運動に没頭する。14年を経て相思社を退職し、鮮魚移動販売を始める(1988)。辞めるに当たっては幾つもの事情があった。大きくいえば二度目の挫折だった。小さくいえば、当時、私自身に残された課題は限られていた。きっかけは相思社の環境部門なるものがあり、対岸の獅子島の調査に係わったことである。(写真参照)「不知火海とそこに係わる人々の暮らし」「不知火海とは?」「不知火海の再生」この辺りが当時の私の問題意識だった。

毎朝、市場で魚と対面する。種類も量も激減してきた。30年ほどの間に水俣の海は急速に痩せ衰えてきた。「魚湧く海」は何処に行ってしまったのか?(写真参照)

乱獲、温暖化、は大きな要因である。それに加えて藻場や干潟が失われて再生産の基盤が失われてきたことも大きいと思われる。水俣はリアス式海岸と思ってきたが、実は広大な干潟を有していた。その殆どが埋め立てで消失した。最近では水俣湾の57畝がヘドロ処理で埋め立てられた。水俣湾の漁獲はほとんどない。もう一方で、豊かな海を支えてきたものは何かと考えてきた。森は海の恋人と言われて

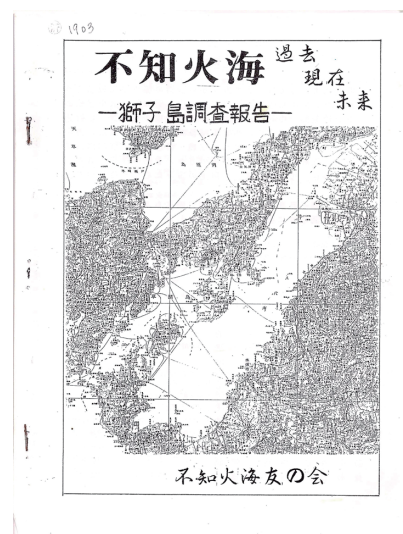
いるが、水俣の場合は森が目の前にある。照葉樹林が岬を覆い尽くしている。(写真)豊富な湧水も無数にある。枯れることなく湧き出ている。

不知火海の再生は大風呂敷だが、水俣の海の再生の道はあるのではないか。「きれいな海ではなく、豊かな海」。自然の要因は難しいが、人為的なものは改善の余地があると思っている。先ず、乱獲をストップさせる。(魚種に限り漁獲制限をして回復を待つことは各地で実施されている)数年間全面的に漁獲を制限し、自然の回復力に任せてみる。

「有明海・八代海再生特別措置法」なるものが生きている。下水道の整備と合併浄化槽の推進を主に進めてきたようだ(要検討)。生活排水を浄化して海に流す仕組みだろう。きれいにはなってきたが、栄養は乏しくなったとも言える。

予算はあるから、これ以上は何もしないで、漁業者の生活補償に充てる。港湾の整備も見送る。お金のやりくりをして取り組んでみる価値はないのだろうか?

検討できる術も能力もない。不知火海球磨川流域圏学会の存在を知ることになった。何だか敷居が高いが、思い切って飛び込んでみた。実り多きことを願っている。





# 会計報告

坂井米夫

※コロナの影響で元年度会議、活動が制約を受ける中、2年度総会が延期を余儀なくされて程なく7月4日球磨川豪雨被害が発生し、多くの会員が被災し、会場の山江村の施設の被害も酷く総会の目途が立たず決算が遅れていました。暫定的に2年5月末締めで報告をいたします。

元年度予算・暫定決算			
(収入の部)			
名 目	内 容	金 額	備 考
個人会費	3000円*90名	270,000	
団体会費		0	
繰越金		152,444	預金 144804 円口座 7640 円
雑収入	学会誌・PDF販売等	10,000	
	発表会参加費 寄付金	50,000	
	雑収	0	
計		482,444	
(支出の部)			
名 目	内 容	金 額	備 考
発送料	90名	45,000	発送料+ハガキ
学会誌作成費	印刷	100,000	
学会誌編集費		30,000	
ニューズレター作成	2回/年	50,000	
事務経費		40,000	コピー、チラシ等
HP維持費		5,000	
会場費	会場費	20,000	役員会・総会・発表会
雑費	講師謝礼等	20,000	
予備費		172,444	
計		482,444	

(収入の部)			
名 目	内 容	金 額	備 考
個人会費	3000円*69名	207,000	
団体会費		0	
繰越金		152,444	預金 144804 円口座 7640 円
雑収入	学会誌・PDF販売等	5,000	
	発表会参加費 寄付金	69,700	見学会残金含
	雑収	1,002	利息2円
計		435,146	
(支出の部)			
名 目	内 容	金 額	備 考
発送料	90名	37,100	発送料+ハガキ
学会誌作成費	印刷	0	1回分休み
学会誌編集費		0	
ニューズレター作成	2回/年	21,890	1回分18900円未払い
事務経費		2,748	コピー、チラシ等
HP維持費		0	
会場費	会場費	20,000	役員会・総会・発表会
雑費	講師謝礼	10,000	総会時
雑費	口座手数料	1,870	
繰越金	預金、振込口座	361,538	預 219768 円振 141770 円
計		455,146	

※学会誌は前年の発行が遅れていましたので、学会誌代金の支払いは行っておりません。